

1 里山における食用きのこ発生に関する調査(第1報)

予算区分：県単
担当科名：生物資源科

研究期間：平成14～18年度
担当者名：宗田 典大

．目的

コノミタケは、コナラ林などに発生するホウキタケ科のきのこで、本県では能登地方を中心に珍重されている食用きのこである。しかし近年、広葉樹林の環境の変化により発生量が減少してきており増産が望まれている。そこで本研究では、コノミタケの生態や発生環境を調査し、増産に関する技術について検討する。

．調査内容

所有者の協力により輪島市三井地区の私有林内に、15m方形区を2ヶ所設定した。プロット1はコノミタケが近年発生している箇所に設置、プロット2はコノミタケが数年前まで発生していた箇所に設置した。各プロットで植生調査及びきのこ発生調査を行った。きのこ発生調査は10月上旬及び中旬に行った。

．調査結果

(1)植生調査

プロット1は植被率が99%で高木層に10年生のコナラ(萌芽更新による)、アカマツ、低木層にソヨゴ、ハイイヌツゲ、草本層にアオハダ、ナツハゼをもつ林分であった。

プロット2は植被率が95%で高木層に30年生のコナラ(萌芽更新による)、アカマツ、亜高木層にコナラ、ソヨゴ、アカシデ、低木層にハイイヌツゲ、マルバマンサク、草本層にサワフタギ、ハイイヌツゲをもつ林分であった。

(2)きのこ発生調査

各プロットで、ベニタケ属、チチタケ属、フウセンタケ属などのきのこの発生が観察された。しかし本年度の調査においては、各プロットともにコノミタケの発生は観察されなかった。

．今後の課題

菌根の分布、シロの構造などコノミタケの生態、およびコノミタケの発生に適する植生、土壌などについて調査を行なう予定である。